NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会
MANO a MANO
～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

１０月９日（土）NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 第36回例会が国分寺市立いずみホールで開催されました。台風22号による悪天候にもかかわらず、約100名の方々の参加があり大変有意義な会となりました。

～本研究会の例会について思うこと～

当研究会監事　伊藤クリニック　伊藤眞一

筆者は18年前の第一回例会（昭和61年６月）より出席している。当初は４～５名の参加者で、近藤甲斐夫先生が司会をし、症例を検討したが鹿児島大学を辞されたばかりの川先生（当時杏林大学客員教授）からのコメントをいただく形式をとり、例会というよりも寺子屋での勉強会という感じであった。
この例会が急に多くの参加者が増えだしたのは眼科との連携がテーマであった公立昭和病院で行われた第４回例会と記憶している。その回以降、病院の総力を結集した例会という伝統ができあがった。19回までは各世話人の所属医療施設を例会の場とした。多摩老の広大な緑、阿伎留病院の、東京とは思われない自然いっぱいの風景、青梅へいくまでの呑気な電車旅など、講演の内容はすっかり忘れてしまったが、皆でガヤガヤ旅役者の集まりみたいに会場に向かったことを鮮明に記憶している。その頃には開催医療施設の講堂を使用していたので、その病院の特徴や雰囲気を垣間見えることができ、実に楽しかった。そのような例会だったので、開催地近隣の医師会の先生も参加しそれを契機に、懇親ができ、それ以降の病診連携活動に大いに役に立った。
現在の医療環境は当時に比し、著しく変化し、医師だけの力量ではとても患者さんに良質な医療が提供できなくなり、ＣＤＥの資格をもったコ・メディカルの参加で必須のこととなり、わが例会も大きく様変わりした。圧倒的なコ・メディカルの参加で熱心な例会は展開されていくが、地元医師会の先生方の参加が寂しいと感じているのは筆者だけであろうか。近藤甲斐夫先生も70才、筆者も還暦、各世話人の先生も初めてお逢いした時に比べ、随分貫禄がついた。半年に一度一同に会する例会は筆者にとって開催当時とは異なり、小学校の同窓会に出席する時のようなワクワクを感じるものとなっている。

・NPO法人　西東京臨床糖尿病研究会　第36回例会の報告・

当日の先生方のご講演内容を一部抜粋してご報告いたします。

　１０月９日（土）西国分寺のいずみホールにて開催された。今回のテーマは「糖尿病診療における患者コミュニケーションを考える」で第１部ではコメディカル・医師それぞれの立場からご講演いただいた。

Ⅰ）管理栄養士の立場から：あいそ内科　櫻庭　由美子先生
実際にあいそ内科で行われている待合室糖尿病教室（体を動かしたり、クイズを交えて実施）や食事チェックシート（患者様への話のきっかけとなる）の活用等についてご講演いただいた。

Ⅱ）看護師の立場から：高村内科クリニック　坂山　光湖先生
大学病院・眼科のクリニック・糖尿病専門クリニックでの経験を通じて、患者さんへ挨拶、声かけの重要性について事例を交えてご講演いただいた。具体的には来院時の患者さんへの声かけやEメールの利用など臨床現場の実体をわかりやすく提示された。

Ⅲ）医師の立場から：「私は患者さんにこう聞く、こう話す」畑中医院　畑中恭子先生
内科医師の立場から、時間的余裕を持った理想を目指した医療について講演いただいた。医師と患者さんとの超専門的チーム医療とはジグソーパズルを一緒におこなうようなものであり、患者さんの生活の背景や暮らしぶりなどを理解することが必要といえる。

Ⅳ）医師の立場から：「要指導患者に対する生活習慣病予防教室開催の経験」
西村医院　西村　理先生
医師の立場・患者の立場に立ってみての両面からのお話や褒めることの大切さなどについて実際に行っている生活習慣病教室の実例を交えてご講演いただいた。

第２部では

Ⅰ）「開業医院での患者満足度とコミュニケーション」スナッジ・ラボ（株）前田泉先生
患者さんの行動変容の改善や血糖コントロールの改善といった満足度を高めていくためにコミュニケーションをどのように行なったらよいのか、数々のデータの提示と具体的な内容をご講演いただいた。

Ⅱ）「糖尿病患者さんとの治療同盟という関係について」多摩みなみｸﾘﾆｯｸ　宮川高一先生
豊富な臨床経験に基づいた「糖尿病治療の在り方」に貴重な提言をいただいた。

１．患者さんの感情的負担感を重視した療養指導が重要である。
２．HbA1cの改善など達成感をもたせることが重要である。
３．PAID感情的負担感のある患者さんにおける療養指導の効果を評価する指標として有用であった。
４．燃え尽き予備軍など療養相談上のハイリスク患者さん群の抽出をすることができる。
５．医療費の負担を訴える患者さんにおいてはコストベネフィットを訴えていて糖尿病治療に対する負担を訴えている場合が考えられる。
６．ひょっとすると栄養相談はそのような負担感を増長させる可能性が考えられた。
７．患者さんの持っている負担感は医療従事者側で予測するのが難しい。

慢性疾患患者の心理と医療者の役割についても傾聴すべきすばらしい講演であった。

〔文責事務局〕

《投稿ｺｰﾅｰ》　秋キャンプについて

秋キャンプに参加して

緑成会病院　管理栄養士　髙橋　大悟

小児、ヤングを通じて初めての参加でした。事前に「みんなしっかりしているから医療的なサポートはほとんど必要ないよ。」と聞いていましたが、まさにその通りでした。私は栄養士としての参加でしたが、栄養面でのアドバイスをすることはあまりなく、むしろ彼らの食に対する意識と行動から気付かされることの方が多くありました。今回は4回目ということでしたが、やはり回を重ねるごとに進化しているようで、食事も選択メニューにするなどかなり趣向も凝らされていました。プログラムはすべて楽しいものでしたが、中でも夜のディスカッションは心に残りました。はじめこそ皆緊張気味でしたが、仕事、恋愛、結婚、糖尿病に関する社会の認知度や理解、外国との比較、相手に対してどこまで自分を出すか、はたまた日本の教育問題までと、話題は尽きず本音で話し合えたような気がします。患者と医療スタッフという垣根が無く、病院という場面では見ることのできない彼らの素顔と接することができたのは非常に有意義でした。キャンプで学び、感じたことは是非今後に活かしていきたいと思います。

平成16年9月17日より3泊4日で行われた**インスリン欠損症の患者会「つぼみの会」**（http://www.geocities.co.jp/Beautycare-Venus/9872/）が主催した秋キャンプ（通称）に調進一郎先生（緑成会病院）、看護師石黒さん、管理栄養士高橋さんがボランティアで参加されました。この秋キャンプは18歳以上の１型糖尿病患者を対象にした仲間作りや情報交換の場となっています。

（写真は皆で山登りをした時のものです。）

１型ヤングの会　秋キャンプに参加して

緑成会病院　看護師　　石黒　清美

１型ヤングの会は１８歳からの男女を中心にした会で、私はその中でも毎年患者同士の交流を深める目的で行われる秋キャンプに、ボランティアとして参加しました。メンバーは医師を中心とした、コメディカルや一般の人もいます。

その中で看護師として参加した私は１型のメンバーが低血糖になったら、又色々難しい質問をされたらなど、責任感で頭が一杯になりました。しかし、１型のメンバーは基本的に自己管理が出来、私が医療職として行う事は何もなく、みんなで山登りをしたりドッチボールをしたりおいしいアイスクリームを食べに行ったり、本当に楽しい毎日でした。

その中で自然と看護師と患者の枠を超え友達になり、日常での悩みを話したり聞いたり、又夜の１０時から飲み会もあり、みんな好きな物を好きなだけ食べ血糖を計りながら注射を打ち、自分の身体と相談しながらおもいっきり今を楽しく過ごすそんな姿を私は医療職として特別な目で見ていましたが、何も特別な事はなくえらいとか、すごいとか感心されたくないという本音を聞かせてもらい、自分がいかにメンバーの人達と同じ目線で見る事ができていなかった事を思い知らされました。

私は来年も是非参加しようと思います。

研修会開催情報

・第９回 武蔵野糖尿病医療連携の会・

※事前申込みが必要です。事前申込みのない当日参加不可。

日　　時　：　２００４年 １１月２０日（土曜日）　１７：００～１９：００
参 加 費　：　¥１，０００　場　　所　：　ザ・クレストホテル立川（立川市錦町1－12－1）
テーマ　　：「明日から始める外来インスリン療法」
プログラム：　１．「治療困難例における超持効型インスリンの使用経験」
　　演者：立川相互病院 内分泌科 住友 秀孝先生
　２．「超速効型インスリン導入の実際」
　　演者：東京都立府中病院 内科　辻野 元祥先生
　３．診療所における外来インスリン導入の実際～患者心理を踏まえながら～」
　　演者：伊藤内科小児科ｸﾘﾆｯｸ 伊藤 眞一先生、
　　ｲﾝｽﾘﾝ担当看護師　高瀬 孝子氏
参加資格　：　糖尿病診療にかかわるすべての方(申込者全員可能)
申込み先　：　都立府中病院　辻野 元祥先生宛 ｱﾄﾞﾚｽ：mtsujino@fuchu-hp.fuchu.tokyo.jp
※参加希望者の勤務施設名、職種、氏名を記入し参加希望の旨メールを送付してくだい。

・西東京CDE研究会 第２回 症例検討会・

※事前申込みが必要です。事前申込みのない当日参加不可。

日　　時　：　２００４年 １１月３０日（火）　　参 加 費：¥５００
場　　所　：　立川市女性総合センター・アイム　５階 第３学習室
テーマ　　：「チーム医療（各職種ごとのアプローチ)」
プログラム：　1.検診で初めて糖尿病を指摘された症例、2.初めてインスリン導入する症例
参加定員　：　定員２０名（申込み先着順)
申込期間　：　２００４年１０月２９日 午前９：００～**１１月２日 午前１２：００迄厳守**
申込み先　：　医療法人 幸隆会 多摩丘陵病院 栄養科　原　純也氏宛
　　ﾌｧｯｸｽ番号：０４２－７９７-１４７８
　　※必ず会報に同封の申込書でお申込みください。
問合せ先　：　東京医科大学八王子医療ｾﾝﾀｰ薬剤部　井上　岳氏
　　TEL：０４２６－６５－５６１１（内線直通７３９５）

・第１２回 武蔵野糖尿病研究会・

※事前申込みは不要です。直接会場までお越しください。

日　　時　：　２００４年 １２月４日（土）　１５：００～１７：００
プログラム：　「糖尿病と脳血管障害」 演　者：東京都済世会病院 副院長 高木 誠先生
場　　所　：　武蔵野赤十字病院山崎記念講堂

･第１７回 多摩糖尿病チーム医療研究会･

※事前申込みは不要です。直接会場までお越しください。

日　　時　：　２００４年　１２月　８日（水）　１９：００～２１：００
テーマ：「CSII療法の理論-看護師の立場から」山梨大学医学部 看護師長 有田明美先生
　　「CSII療法の理論-医師の立場から」山梨大学医学部 第3内科 教授 小林 哲郎先生
場　　所　：　立川氏女性総合センターアイム（立川アイム）

NPO法人　西東京臨床糖尿病研究会
〒185-0012　国分寺市本町3-10-22 ｵﾘｴﾝﾄﾌﾟﾗｻﾞ402　TEL：042(322)7468　FAX：042(322)7478
http://www.nishitokyo-dm.net/